

○事業所名	こぼんはうすさくら埼玉ふじみ野教室		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2025年12月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2025年12月20日		～ 2025年12月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月15日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p><ICTの活用による円滑な業務連携> 療育活動や送迎、申し送りの各場面でICTを積極的に活用しているため、スタッフ間の情報共有や引き継ぎがスムーズに行われています。システムを通じて、常に最新の情報がタイムリーに共有されることで、スタッフは児童の状況をリアルタイムで把握でき、統一感のある支援を行うことが可能です。さらに、ICTの導入は業務全体の効率化にも寄与しており、保護者とのコミュニケーションも含め、事業所全体の運営をより円滑にしています。</p>	<p><ICTの活用と危機管理への対応> 当施設ではICTを積極的に導入し、療育や事務作業の効率化を図っています。これにより、スタッフ間の情報共有が迅速になり、療育内容や個別支援計画の進捗管理もスムーズに行えます。さらに、緊急時にも即座に対応できる体制を整え、事故や健康状態の急変時には必要な情報にすぐアクセス可能です。こうした取り組みは、施設全体の安全対策と支援の質向上に貢献し、利用者の安心感にもつながっています。</p>	<p><情報共有の迅速化と明確化の強化> 施設内の情報伝達をより迅速かつ確実にを行うため、スタッフが共有すべき情報を整理し、リアルタイムで伝達できるシステムを整備しています。具体的には、日々の療育内容や児童の状態の変化、支援計画の進捗など、重要な情報をICTツールでスタッフ間に迅速に共有します。さらに、情報の明確化を図るガイドラインを作成し、全員に確実に伝わる体制を整えています。これにより、情報の伝達ミスを防ぎ、療育の質や対応の一貫性を高め、児童一人ひとりに適切かつ迅速な支援を提供できる環境を構築しています。</p>
2	<p><多職種連携による包括的な支援体制> 当施設では、異なる専門分野のスタッフが連携し、知識や経験を活かした包括的な支援を行っています。これにより、児童一人ひとりの多様なニーズに応じた個別支援が可能となり、複雑なケースにも柔軟に対応できます。定期的なケース会議や情報交換を通じて、各専門家の知識を共有し、より効果的な支援体制が整っています。</p>	<p><多職種連携による専門知識の共有> 施設内では、異なる分野の専門家が連携して児童支援を行っています。定期的なミーティングやケースカンファレンスを通じ、各職員の専門知識や経験を積極的に共有し、互いに気軽に相談できる文化を育てています。これにより、複雑な事例でも多角的な視点から支援が可能となり、より効果的な支援計画の策定につながっています。連携による知識の融合が、支援の質向上に大きく貢献しています。</p>	<p><ICTの活用による支援方法の統一> 当施設では、ICTツールを活用して児童への支援や対応方法を記録・共有する仕組みを整えています。支援計画の進捗や療育活動の記録をデジタル化し、スタッフ全員がリアルタイムで確認できることで、支援の一貫性と効率性を高めています。また、新しい支援方法や改善策が導入されるたびに全員に反映させ、最新の内容を共通理解できる体制を構築しています。これにより、スタッフ全員が常に最適な支援方法を選択でき、支援の質向上につながっています。</p>
3	<p><職員の定着と児童に優しい環境づくり> 職員の離職率が低く、安定したスタッフ体制のもとで継続的に質の高い支援を提供できることは、施設の大きな強みです。広々とした教室は児童が安心してのびのびと活動できるだけでなく、自由な動きと安全の確保を両立させています。また、ゆとりのある空間は多様な療育活動や遊びにも柔軟に対応でき、児童一人ひとりの個性や発達段階に合わせた支援を行いやすい環境となっています。こうした職員と児童の双方に配慮した環境づくりは、継続的な支援の質向上にも大きく寄与しています。</p>	<p><療育活動に必要なツールの自作・準備> 児童一人ひとりの特性やニーズに合わせた療育活動を行うため、必要な教材やツールをスタッフが自ら作成し活用しています。特に、絵カードや視覚支援ツールなど、児童が理解しやすい工夫を施した教材を手作りしており、視覚的にわかりやすい環境を整えることで、児童が療育内容をスムーズに理解できるようサポートしています。さらに、ツール作成に際してはスタッフ間でアイデアや情報を積極的に共有し、創意工夫を重ねた教材を提供する体制が整っています。これにより、個別のニーズに応じた柔軟で効果的な支援が可能となり、児童一人ひとりに寄り添った療育の実現に繋がっています。</p>	<p><役割分担の明確化によるチーム支援の強化> 療育活動におけるスタッフの役割を明確化し、それぞれの専門性を最大限に活かせる支援体制を整えています。担当領域を明確にすることで、スタッフ一人ひとりが自信を持って役割を果たし、チーム全体の支援の質を高めます。さらに、専門職ごとの役割分担に加え、定期的なミーティングを設けることで疑問や課題を早期に解決できる体制を構築しています。これにより、チーム内の協力が強化され、児童一人ひとりに対してより効果的で一貫した支援を提供することが可能となります。</p>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p><身体活動を重視した療育支援の充実と工夫> 現在、当施設では身体を使った運動やフィジカルな活動を中心とした療育プログラムが十分とは言えず、児童が体力や運動能力を伸ばす機会が限られています。身体的な発達やリズム感覚の習得、感覚統合の促進は、児童の成長において非常に重要であるため、運動療育の強化が課題です。今後は、屋内外での多様な身体活動を組み込んだプログラムを導入し、専門的な運動指導を行える外部講師の活用も視野に入れます。これにより、児童一人ひとりの発達段階やニーズに応じた運動機会を増やし、心身の健やかな成長を支える環境づくりを進めていきます。</p>	<p><立地条件による屋外活動の制約> 当施設は都市部に位置しているため、庭や広い屋外スペースが確保できず、児童がのびのびと屋外活動を行う環境が限られています。自由に体を動かしたり、自然と触れ合ったりする機会が不足していることは、児童の身体的成長や情緒の発達において課題となっています。現在は近隣の公園を利用するなどの工夫を行っていますが、天候や利用時間に左右されるため、安定的な屋外活動の提供には限界があります。今後は、室内でも自然体験や運動遊びができるプログラムを導入し、児童一人ひとりの多様な成長を支援できる環境づくりを進めていきます。</p>	<p><外出活動の積極的な導入と多様な環境体験の提供> 当施設では、児童が日常の教室環境を超えて多様な体験を得られるよう、自然や地域の公共施設、商業施設などを活用した外出活動を積極的に取り入れています。こうした活動は、社会性の育成や感覚刺激への適応力を高めるとともに、児童にとって楽しさや挑戦心を伴う学びの場となります。さらに、地域の方々や各施設と連携し、安全面を十分に確保しながら、日常生活での体験や社会的ルールの習得を目的に計画的に実施しています。外出活動を通して、児童一人ひとりの自己表現力や適応力を伸ばし、成長を支える環境づくりを推進しています。</p>
2	<p><小規模ゆえに生じる人材依存の解消とスキル向上> 当施設は小規模な組織であるため、特定の業務や支援に限られた職員に依存しやすく、その結果、負担の偏りや支援内容のばらつきが生じることがあります。こうした状況を改善するため、職員間での知識・技術の共有を促進し、定期的なスキル研修やチームでの業務分担の工夫を進めています。これにより、個々の職員に過度な負担がかからず、施設全体で統一した質の高い支援を安定的に提供できる体制の構築を目指しています。</p>	<p><職員のスキル向上機会の不足と支援体制の強化> 当施設では、職員一人ひとりが持つ知識や技術をさらに伸ばすための体系的な研修や勉強会の機会が限られており、これが支援体制の安定化における課題となっています。療育では多様な知識や専門技術が求められ、児童の個々のニーズに柔軟に対応する力が必要です。現状では職員個人の経験に依存する部分が大きく、新しい方法や技術を全体に浸透させることが難しい状況です。今後は、外部研修や専門家との連携を積極的に活用し、職員全体のスキルを底上げすることで、施設全体で質の高い支援を安定的に提供できる体制の構築を目指します。</p>	<p><実務に役立つマニュアル作成と指導の充実> 職員が安心して業務を行い、安定した支援を提供できるよう、業務手順を整理したマニュアルの作成と定期的な更新を進めています。マニュアルには、実際の支援場面やトラブル対応の具体例を盛り込み、新任職員でも実践的に理解できる内容としています。加えて、OJT（職場内訓練）を活用し、経験豊富な職員が現場で新任者を指導・サポートする体制を整えることで、知識や技能の伝達を確実にに行います。これにより、職員全体のスキル向上と支援の一貫性が図られ、施設全体で高品質な支援を安定して提供できる体制づくりにつながっています。</p>
3	<p><音楽療育の充実に向けたスキルとプログラムの強化> 当施設では、音楽を通じて児童の情緒的な発達を支援する取り組みを行っていますが、現状では児童の関心を十分に引き出せるプログラムや参加意欲を高めるアプローチが十分ではありません。今後は、音楽教育や音楽療育の専門知識を持つ外部講師との連携や、職員向けの研修を通じてスキルを高め、多様な音楽体験を提供できる体制を整えます。また、児童一人ひとりの特性に合わせた音楽活動を取り入れることで、個別支援の幅を広げ、情緒面や表現力の発達をより効果的にサポートしていきます。</p>	<p><人的リソースの限界と多様なニーズへの対応力の課題> 小規模な施設であることから、職員一人ひとりにかかる業務負担が大きく、特定の支援や業務に偏りが生じやすい状況です。このため、業務の質や安定性を確保することが難しくなり、児童の多様なニーズに柔軟かつ迅速に対応する体制の構築が課題となっています。加えて、日常業務に追われる中で、新しい支援方法の導入や長期的な計画に十分な時間を割くことも難しい状況です。今後は、業務分担の最適化や支援体制の見直し、外部リソースの活用などを通じて、職員の負担を軽減しながら、施設全体で安定的かつ多様なニーズに対応できる体制づくりを進めていきます。</p>	<p><講習会や情報提供による意識向上と学びの促進> 職員が主体的に学び、支援力を高められる環境を整えるため、定期的な講習会や勉強会を実施し、最新の療育知識や技術を習得する機会を提供しています。また、日常的に業務に役立つ情報や支援の工夫を共有するため、掲示物や資料配布を活用し、学びを継続的に促しています。さらに、職員同士の意見交換や知識共有の場を設けることで、個々の成長だけでなくチーム全体の連携力や専門性を高め、現場全体で質の高い支援を安定して提供できる体制づくりを目指しています。</p>